

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑪保護者との連携・協力と相談支援

- ◆ 保護者が安心して子育てと仕事を両立できるために、保護者への対応の基本として傾聴・受容・共感的理解は信頼関係を構築する上でとても重要だと感じました。グループワークで実践した視線や相手との距離も、少しずつ相手のことが分かると狭まっていくことが分かりました。向かい合うより同じ方向を見て並んだ方が距離が近づき、相手のテンポで聞いて相手の言葉をそのまま繰り返すという技術を体験する貴重な時間となりました。
- ◆ 今回の科目で学んだことは、エンパワーメント（じっくり話を聞いて興味をもったり、ほめたりすること）を実践し、子どもだけではなくその保護者も共に成長する手立てを考えるということです。私は保護者にきちんと伝わっているかがとても気になり、不安になることがあります。講義の中で、「伝えたいこと」ではなく「伝わったこと」が真実とありましたが、その言葉を聞いた時に心が納得しました。大切なのは「伝わったか」なので、相手がきちんと理解できているかを念頭に置いていきたいと思いました。
- ◆ 保護者との連携や信頼がとても大切だと改めて感じました。マイナスなイメージを持つてしまうこともあります。保護者へ少しでも寄り添い、子どもを通して何度も何度も試行錯誤しながら信頼関係を少しずつ作っていきたいです。また、一人一人の個性を尊重し、解決策をパターン化することなく、一人一人に傾聴し、一緒に振り返ることは本当に必要だと感じました。うまくいかないからやめようではなく、振り返ることで次に活かしていきたいです。
- ◆ 本科目を通じて学んだのは「ほめる」「認める」の重要性についてです。子育てをほめることは、保護者の生き方をほめているのと同じであり、保護者の自信につながると感じました。子どもが不安や悩みを抱えていたら、寄り添って話を聞き、沈黙があった場合は子どもが言えない感情をくみ取って、その子を認めてあげることが大事だと学びました。アイコンタクトを大事にすることを心がけていきたいと改めて感じました。
- ◆ 社会環境の大きな変化により、現場に期待される役割はますます大きくなってきています。今回学んだ保護者への対応スキルはとても有意義な内容で、具体的な方法も多く、今後しっかりと実践していこうと思いました。コミュニケーションは「思いやり」を伝える技術ということもよく理解できました。